

2022年度 キャリアアップセミナー

『学術活動をキャリア形成に活かす』

公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支部
学術委員会

「臨床研究のススメ」

大阪ハイテクノロジー専門学校 星野 貴志

診療放射線技師が行う研究内容はさまざまであるが、どのような研究においても行っている研究の成果がどのように臨床現場に反映されるかを意識することが、研究のポテンシャルを維持することにつながる。多忙な業務の合間に研究のための時間を割くのであるから、よほどの動機づけがなければ長時間、興味を持つことは困難であろう。「この研究は誰の役に立つのか？」という疑問を、研究を開始する前に自身に問うことが勧められる。もちろん、診療放射線技師が基礎研究をすることに意味がないというものではない。臨床に携わる技師であるがゆえに行える基礎研究も多く、患者への直接的な恩恵はないかもしれないが、知の集積に役立つ研究であり、医療技術の進歩には欠かせないものである。それらの研究で得られた新規的かつ重要な知見を学会等で公開し、そこで交わされた議論を踏まえたうえで論文化し共有することにより、多くの施設で役立てるべく知識を伝承することが望まれる。今回は研究の意義に加え、学術活動が私の技師としてのキャリアにどのように関わってきたのかをお話したい。

「大学病院・市民病院・歯科病院など多施設勤務の経験を糧に、論文投稿できた体験談」

大阪歯科大学附属病院 財家 俊幸

私は、大学病院・市民病院・私立歯科大学病院勤務と多施設勤務の経験のある技師歴8年になる者です。今回の内容は、2019年に論文塾を受講し、苦難を乗り越え2年弱かかった論文受理へ至るまでの話です。学会発表を基本として学んだ大学病院時期では、放射線技術学会や医学会への研究発表を活発的に行いました。中規模病院時期では、勤務期間が短期なので研究活動の期間はありますが、後の論文投稿に不可欠な人脈を作ることができた時です。最後に、私立歯科大学病院時期では、歯科医師の先生や論文塾の先生達から、サポートをもらいつつ論文投稿した時期です。発表から論文受理までの経験を交えながら、詳細に話したいと思います。

前施設の技師さん、歯科医師の先生や論文塾の先生達との人脈を大切にしてきた事によって論文投稿に繋がりました。いつか皆さんの今後の論文投稿の一助になるような体験談になればと思います。

「大学院で得たものをどう生かすのか～人生これからや！～」

大阪国際がんセンター 木原 彩花

診療放射線技師の卒業後の進路には、病院・企業就職や進学がある。このうち、私は医学物理士取得を目指して大学院に進学し、研究ではMATLABを用いたディープラーニングに挑戦した。在学中は近畿支部学術大会で大会長賞を受賞し、論文投稿も果たした。現在は大阪国際がんセンターにおいて、高校からの夢であった放射線

治療業務に従事している。今後は、「臨床に役立つような研究をして、患者さんの治療に貢献したい」という新たな夢に向かって、突き進んでいきたい。

本講演では、私が大学院進学を決意した理由と大学院での授業・学術活動について紹介する。その後、大学院修了後の進路としてなぜ当院への就職を選んだのかについて説明する。最後に、当院での今後の研究内容と、これからの一度きりの人生でどのようなキャリアを築いていきたいかについて述べる。本講演が大学院進学を悩んでいる学生や診療放射線技師の一助になれば幸いである。

「キャリアアップは人のマネをしてなんぼ！！～これが私の生きる道～」

大阪国際がんセンター 宮崎 正義

「絶えず変化を求める気持ちと不満こそが、進歩するために最初に必要となるものである」。エジソンの言葉である。

われわれ診療放射線技師は、日々進化する医療技術を駆使し、患者さんにより良い診断、治療を提供する為、留まることなく知識の向上が必要である。

と書いたが、学生時代は研究などやろうとも、やりたいとも思っておらず、目の前の仕事を丁寧にやれば良いと考えていた。この考えは、就職してから間違いである事に気付かされた。

人は変わるのか、変えられるのかと問われると、私は人に変えられ、人は変わると思う。皆様も人生を生きていく中で、多くの方と出会い、自分の考えが変わった事はありませんか。今の自分は今まで会った方々の影響によって形成されたと言っても過言ではありません。

講演では、私の人生を紐解きながら、変わるのは遅く無い、自分の人生は自分で決めるなど、皆様がキャリアアップを再考するきっかけになれば幸いです。

「キャリアプランの実現のために～学術研究活動のススメ～」

地方独立行政法人りんくう総合医療センター 中前 光弘

皆さんは、5年後、10年後、20年後に自分がどのような診療放射線技師になっているか、考えたことはありますか？就職前から明確なプランを思い描くことは難しいと思います。しかし、5年後にそのプランが実現できているのか？振り返る必要があります。自分のプランを実現するための経験が積めているのか？スキルを身につけられているのか？自己分析と客観的な評価が必要です。

職場で用意されているノルマを達成するだけでは、自分の思い描くキャリアプランを実現することはできません。そもそも職場のノルマには、最低限の業務を遂行するためのスキルしか含まれていません。また、職場（上司）の考え方や雰囲気でも大きく異なっています。

その職場の殻を破るために、また皆さんの求めているスキルを身につけるためにも“学術研究活動”がお勧めです。

私の経験談を踏まえて、学術研究活動の必要性をお話しさせていただきます。